

2021年8月29日～9月4日 各家庭でのディポーション用テキスト

[切られた枝]

「実を結ぶものはみな、
もっと多く実を結ぶために、
刈り込みをなさいます」

実を結ぶのは 枝
はさみの痛さを知るのも 枝
さらによく実を結ぶためです
さらにいのちに満ちるためです

つぼみのある小枝が切られ
美しく巻いたつるが落とされ
のぞいたばかりの若芽が
木から離れてしまったけれど

喜びの日々を奪われ
美しさを刈り取られ
流した汗がちりに帰した
すべてを砕かれ裂かれた人よ

よく聞きなさい

すべての願い すべての夢
すべての望みが消え果てても
あなたは喜びおどきなさい
それは神のご愛のあらわれだから

はさみで切ってくださるのは
みなやさしいみこころからのこと
これまでのわずかな実りより
もっと豊かに実らせるためだから

アニー・ジョンソン・フrint
Poems より

■疑いについての訓練 (1/3)

わたしにつまづかない者は幸いです。(マタイ 11:6)

疑いは、陰気なじめじめとした暗やみのように私たちの心に住みつく。私たちは
当惑のあまり感覚を失い、何をなすべきかを知らず、どの道を行けばよいかもわか
らなくなる。疑いは、体内に深く食い込む病気のように、私たちの確信や良心の中
枢を、絶え間なく無慈悲に苦しめる。私たちはろうばいのために目まいがしてよろ
めき、気を失ってしまう。私たちは自分自身を疑い、友を疑う。自分の経歴を疑
い、将来を疑う。自分の経歴を疑い、経歴から引き出される事実を疑う。聖書と聖
書の提示する神に対する自分の信仰を疑う。疑いは私たちを敗北させ、落胆させ、
滅ぼしてしまう。

これとは全く反対に、信仰は築き上げ、持ち上げ、荷を軽くし、力をつける。

「義人は信仰によって生きる」(ヘブル 10:38、ローマ 1:17)。信仰は悲しみのた

め息に代えて笑いの歌をもたらし、失望の暗やみに代えて命の光をもたらし、恐怖のよろめきに代えて生氣の力を与え、心の飢えに代えて祝福の香油をもたらし。信ずる者は幸いである。その人は幸福であり、喜びに満ち、堅く立ち、力強く、そして絶えることのないさわやかな泉から供給を受ける。

私たちのよく知っている至福の教えは多い。「幸いなことよ。悪者のはかりごとに歩まず、罪人の道に立たず、あざける者の座に着かなかつた、その人。まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ」（詩篇 1:1、2）。私たちはまた、次のようなみことばを幼いころから知っている。「心の貧しい者は幸いです。……悲しむ者は幸いです。……柔和な者は幸いです。……義に飢え渴いている者は幸いです。……あわれみ深い者は幸いです。……心のきよい者は幸いです。……平和をつくる者は幸いです。……迫害されている者は幸いです」（マタイ 5:3-12）。私たちはまた、つまづくことのないように、信ずることの幸いを知っているだろうか。

例として、バプテスマのヨハネと、疑ったトマスを経験をたどってみよう。ヨハネの質問に見られる彼の失望の深さを、だれが推し測ることができるだろうか。彼は言った。「おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、私たちは別の方を待つべきでしょうか」（マタイ 11:3）。ヨハネは、イエスが主であり、いと高き方の御子であられるという、明確な信服するに足る啓示を受けていなかったのだろうか。彼はみことばにより、自分が「『主の道をまっすぐにせよ。』と荒野で叫んでいる者の声」であることを知っていた（ヨハ 1:23）。「私は水でバプテスマを授けているが、あなたがたの中に、あなたがたの知らない方が立っておられます。その方は私のあとから来られる方で、私はその方のくつのひもを解く値うちもありません」と言うことができた（26、27 節）。彼は御霊がはどのようにイエスの上にくだるのを見、「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ」という天からの声を聞いた。